

# 未来をつくる



愛知県立岡崎西高等学校

校長 大石 益美 氏

卒業式を終えたらそのまま臨時休業、新年度になり、学校再開と思いきや、入学式後に再度の臨時休業。新型コロナウイルスの感染拡大により、目の前に生徒がいるのは当たり前と思っていた学校の姿がなくなり、学校教育について改めて考える機会を得た気がします。

初任の頃、先輩がさらっと「教育は未来をつくる仕事だ」という言葉を口にされ、私はそれを教員という仕事に夢を与えてくれる素敵な言葉だと感じました。言うまでもなく、教育は生徒個人の考えに影響を与えるものですが、人の考えが変われば社会も変わります。教育は国家百年の計と言われる所以であり、当たり前のことなのですが、目の前の生徒に対してしていると、遠い未来や大きな

社会のことが見えにくくなるようです。ですから、私は、生徒の前に立つとき「未来社会のつくり手としての生徒に対峙している」という意識を忘れないようにしてきました。生徒が成長すれば、それは未来に貢献できたということであり、これは何物にも代えがたい教員の喜びです。

今では、私が初任の先生にこの言葉を伝えていきます。また、学校全体でこの意識を共有しながら、経験の浅い先生も、チームの一員として自信をもって生徒の前に立てるような学校づくりをしているつもりです。

思いもよらぬ臨時休業も、生徒たちにとっては、かけがえのない経験となるはずです。未来の理想社会を思い描き、課題を克服するためには、知識と思考、そして、行動が大切な



(おおいし ますみ)

## 教育随想



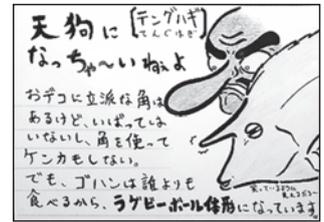
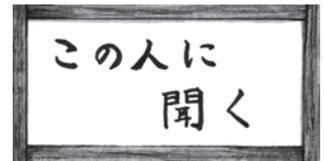
令和2年5月1日

# 5月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想…………… 1  
岡崎西高等学校  
校長 大石 益美 氏
- この人に聞く…………… 2  
人間環境大学客員教授・竹島水族館長  
小林 龍二 氏
- 羅針盤…………… 2  
生活・総合指導員 柴田亜由美
- ふれあい…………… 3  
上地小学校 教諭 石田みゆき
- 特集…………… 4  
日本語初期指導教室(プレクラス)
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8  
手具を使った組体操  
(昭和47年)
- この本を…………… 8



何もない、だから何でもできる

人間環境大学客員教授  
竹島水族館長

小林 龍二

幼少期から魚が大好きで、大学卒業後に地元の竹島水族館に就職する。当時業績が悪く、閉館の危機にあった竹島水族館を斬新な発想で変革し、来客数をV字回復させた。現在は水族館長として館を運営する一方、市内の人間環境大学で教鞭をとり、経験をもとに学生を指導している。

— 小林さんが就職された当時のことを教えてください —

初めはとても楽しかったです。大好きな魚に囲まれて給料までもらえるのですから。でも、それも三か月くらいでした。なぜなら、本当にお客さんがいなかったからです。水槽の裏での仕事を終えて表に出ても、誰もいない。水族館は、魚の魅力

多くの人に伝える場所のはずなのに、こんなに見てもらえなくて、ここにいる魚が可哀想だと思いました。幼い頃からの夢が叶って飼育員になったのに、水族館に行くのが嫌になり、辞めることも考えました。— その状態をどのように変えていったのですか —

自分がいちばん好きな魚のことだから、逃げたくない、逃げたはだめだと思ったんです。だから、この水族館を何とか変えようと覚悟を決めました。水族館全部の魚を担当して勉強したり、二〇〇人以上のお客さんに感想を聞いたりと、できることをやりました。主任になってからは、スタッフの気持ちを变えることにも取り組みました。お客さんと向き合うよう根気よく説得し、積極的にコミュニケーションをとるようスタッフに伝えました。すると、僕たちの考えとお客さんの要求には、大きなずれがあることが分かりました。難しい学術的な情報など、誰も求めていなかったんです。今、全国の皆さんが親しみやすいと注目してくださる手作りの解説看板も、そんな中で生まれたのです。

— 大学ではどんな講義をしていらっしゃるのですか —  
「魚の展示学」です。講義名を「展示学」としたのは、実際に海に出て魚を捕まえ、大学内で飼育し、その

魚について人に伝えるところまでを扱うからです。「捕まえる・飼う・伝える」を三本の柱と考え、魚の魅力を発信することまでが大切だと教えています。例えば、解説板を書くのなら、人が見てくれる文字数や色を考え、対面で説明するのなら、相手を引きつける話し方や笑いも大事だと。日頃竹島水族館で実践していることを伝えていきます。

— 岡崎の子供たちや先生にメッセージをお願いします —

子供たちの中には、「自分には何もない」と思う子がいるかもしれない。だけど、それは逆に考えれば「これから何にでも挑戦できる」ということだと思えます。うちの水族館も、それまで何もなかったことが、今では最大の強みになりました。だめだと決めつけずに、魅力として進化させることを考えれば、何もできないことが輝ける材料になる。今、何もできないと悩んでいる子こそ、これから何にでも挑戦できる子だと思っしてほしいのです。



氏名 小林 龍二  
生年月日 昭和五十六年 二月二日  
住所 蒲郡市大塚町



子供の思いや願いの実現を  
目指す生活科の授業

生活・総合指導員

柴田亜由美

子供の思いや願いに寄り添う單元構想の工夫や意図的な働きかけで、生活科の豊かな学びが生まれる。

A 小学校二年生の生活科、おもちゃ作りの授業。担任のB教諭は、おもちゃ会社の社員になりきった子供に、社長からの指令書を読み上げた。前時の「もつとよく飛ばすストロークケットにしたい」という子供の思いとぴたり一致する指令に、子供は大喜びである。「おもちゃ会社の社員」という仕掛けが功を奏し、子供を主体的な学習者にする事ができた。

ストロークケットは、ペットボトルの発射台にゴムをかけ、ゴムが縮む力を利用してストローを発射するおもちゃである。簡単な仕組みだが、ゴムの種類、引き伸ばし方、飛ばす角度、ストローに付けるおもりの量



## 思考のバリエーション

上地小学校

教諭 石田みゆき

六年生のAと出会った四月。活発な女の子という印象だった。しかし、国語科の授業で見たAは、そうではなかった。周りを気にしながら不安そうに手を挙げるA。指名されると、「何て言うか……。」

なかなか次の言葉が出てこない。手振りを交え、何とか伝えようとする姿から、Aは自分の思いを伝えることが苦手なのだと感じた。A自身も、国語科がいちばん苦手だと言った。私は、そんなAに国語科で自信をつけさせたいと思った。

しかし、Aの不安の原因は、思いを伝えることが苦手というだけではなかった。五月、学級の女子から、Aが一部の男子に悪口を言われていると聞いた。Aに話を聞こうとしても、「もう、いいですよ。」

そう言うてうつぶむいてしまった。「傷ついているあなたを見過ぎす」とはできない。絶対に止めるから。」と約束して話を聞いた。これまでも男子は注意を受けていたが、なかなか悪口はなくならなかったという。授業中の不安気なAの表情が頭に浮かんだ。

私は、言葉の暴力について道徳の授業を行った。子供たちに、言葉が与えた心の傷は、与えた人には見えなくても、与えられた人には、ずっと残るものだと話した。うつぶむいたままのAの姿を横目に見ながら、一部の男子が、じっと黙って話を聞いていた。

翌朝、Aから、先生を信用して話してよかったと手紙をもらった。悪口を言っていた男子が、謝ってくれたというのだ。初めて見るAの笑顔に、もう大丈夫だと思った。

しかし、周りへの不安はなくなっても、Aの発言は変わらなかった。「えつと……。だから……。」

その後の言葉が続かない。それでも一生懸命話そうとする姿に、私は、はつとした。Aには、自分の思いを表現する経験がもっと必要なのだと考えた。それから私は、Aのつぶやきに共感したり、ノートに朱書きを入れたりして、Aの考えを認めていることを伝え続けた。

ある日、返却されたノートを見て、「国語得意。」

笑顔で話すAの声が耳に届いた。「その調子だよ」と言うのと、「はい」と返事をするAの表情は、明るく輝いていた。

「国語は人の心を育ててくれるすごい教科です。私は国語の勉強を通して、自分に自信ができました。」

Aは卒業文集にそう書いた。これは、Aが自分でつかんだ自信だ。

四月から、自分の思いを表現する経験を重ねてきたA。卒業文集に「自分に自信がついた」と書くまでには長い道のりがあった。卒業を間近に控えたAが、生き生きとした表情で授業に臨む姿に、「頑張ったね」とエールを送りたい。

Aのことを思い、試行錯誤した日々は、私の思考にバリエーションを与えてくれる貴重な時間となった。



など、遠くへ飛ばすための工夫がふんだんにある。体育館を大きく使って設置された「お試し発射台」。何メートル飛んだか、一目で分かる工夫もされた。発射台の端には「修理工場」と称して、教師が用意した五種類もの輪ゴムが長机に並ぶ。環境を整えることで、子供の視点は輪ゴムに絞られる。同じ願いをもった子供が同じ場所で飛ばすことで、自然と関わり合いが生まれた。

児童Cは、太めの輪ゴムを選択したが、強く引くうちにストローの先が下を向き、遠くへ飛ばないことに気付いた。遠くへ飛ばして歓声をあげる友達の様子をじっと見つめる。

「あつ」とつぶやき、何かに気付いたようにストローの向きを変え、再挑戦した。ここには、子供の気付きをじっと待つ教師の出があった。環境を整えるという意図的な働きかけにより、教師が「考えなさい」と言わずとも、子供は、見通しを立てて試行していく。「話し合いなさい」と言わずとも、そこかしこで、こつを伝え合う姿がある。この原動力は「遠くまで飛ばすストローケットを作りたい」という強い思いである。この思いを引き出すことが肝となる。

子供の思いを引き出し、願いに寄り添う教師の意図的な働きかけが、子供主体の豊かな学びを生む。

# 日本語の学習が必要な子供に 大きな「希望」を

～日本語初期指導教室（プレクラス）「希望」と小学校日本語教室～



◇日本語初期指導教室（プレクラス）「希望」の開校式（令和元年5月13日）

## プレクラス「希望」とは

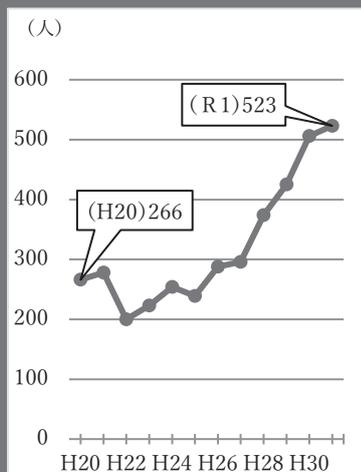
来日して間もない、日本語が全く分からない生徒が一定期間集中的に学習し、円滑に日本の学校に適應できるように支援する教室である。日本の学校生活に適應するため、日本語の獲得の他に、学習のルールや掃除、生活マナー、欠席のときには連絡をしなければならないことなど、本国との文化の違いも学習している。

今年度からは、保護者の送迎が可能な小学4年生以上の児童も対象となった。指導員や語学相談員も増え、さらに充実した指導が行われる。

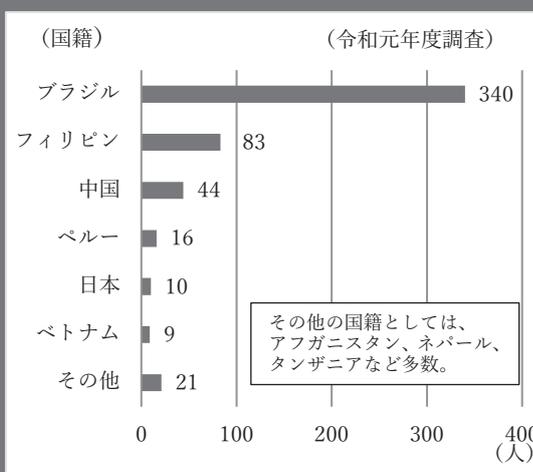
## プレクラス「希望」の日課

学習	時間	学習内容例
登校	9:00	
朝の会	9:00～9:20	朝の会
1時間目	9:20～10:10	日本語(文字・語彙)
2時間目	10:20～11:10	数学
3時間目	11:20～12:10	基本文型・会話
昼食	12:10～12:40	弁当
清掃活動	12:40～13:00	掃除
4時間目	13:15～14:05	今日の復習
帰りの会	14:05～14:30	帰りの会

## 日本語指導が必要な岡崎の子供の数の変化と国籍調査



◇10年間で約2倍に増加。今後も増加が予想される。



◇日本国籍であっても、日本語教育を必要とする子供もいる。

近年、岡崎市内小中学校に編入してくる日本語教育が必要な子供の数は増え続けている。二〇〇八年に、二六六人であったものが、昨年は五二三人と約二倍となった。今後、この傾向はさらに強まることが予想される。

在籍中学校で、言葉が分からないため、孤立しがちで、仲間とコミュニケーションをとることに苦労する子供がいる。この状況を改善するために、日本語初期指導教室(プレクラス)「希望」を南中学校に開設した。ここでは、日本語での意思の疎通、スムーズな学校生活、日常生活に必要な日本語の習得の三つを目標として熱心な指導を行っている。その指導や支援は、子供たちの大きな支えとなっている。

プレクラス『希望』で過ごす3か月

◇プレクラスの看板



個に応じて系統的な指導ができるよう学習プリントが準備されている。



生徒は、バスや自転車で登校し、自己紹介の練習から始める。



かるたなどで文字や言葉を楽しく覚える時間もある。



店で商品を購入するなど、実際の生活場面を想定した役割演技による会話練習をする。



在籍校で学習する姿を指導者が参観し、集団生活がうまくいくよう個にあった指導に生かしている。

プレクラス『希望』

室長 荒井 留美 先生



プレクラス『希望』での学習支援の開始からまだ1年ですが、ここで学んだ生徒から多くの喜びの声を聞いています。病院で父親の通訳をし、家族の支えとなることができたことや、日本語しか話せない父と話せるようになり、家族の絆が深まった話などを聞くとうれしく思います。

生徒は、入級時期も、得意不得意も個々に違います。そのため、語学支援の先生と相談しながら、個にあった学習を提供しています。人数が多いときは大変ですが、涙ながらに感謝の言葉を語り、卒級していく姿を見送るたびに、よりよい支援をしていこうという思いが強くなります。

今年度からは小学生も入級してきます。より多くの子供たちを支援していきたいと思っています。



できるようになったことを共に喜び、胸を張って在籍校に戻れるように温かく送り出す。

僕がこのプレクラス来たばかりの時日本語がへたでした。みんなが何にも言わなかった。先生達が本当に優しく教えてくれた。でも三ヶ月間、毎日みんなと一緒にはしゃぎまわりました。今は、小学三年生までの漢字を読んだり書いたりできるようになりました。時の英語や数学のきそも少し分かりました。中学校で勉強する自信が付きました。みんなと会うことが本当に楽しかったです。(以下省略)

各校の実態に合わせた小学校日本語教室の指導・支援



簡単な日本語で、在籍学級同様に算数の一斉授業を行う。(本宿小)

令和元年度 第23回

学芸会

■とき 令和元年10月26日(土)  
開演 8時50分  
■ところ 六ツ美西部小学校 体育館



大きな行事の時は、QRコードを読み取り、他の言語音声で聞くことができるプログラムを作成。子供が同時通訳でアナウンスを行う。みんなで行事を楽しめるようにしている。(六ツ美西部小)



日本語教室で行うお楽しみ会は、6年生が、最高学年として活躍する姿を見せて卒業する。(竜美丘小)

【関連情報コーナー】アプリを使って日本語を多言語に翻訳



「カタログポケット」や「Google翻訳」などカメラにかざすだけで翻訳されるアプリを活用するとノートや板書の文字が外国語に変換され、理解の助けになる。

OIA & Viva キッズ日本語ひろば

日曜日 13:30~15:00、1回500円(兄弟・姉妹は+100円/1人)

で日本語の勉強や学校の宿題を教えてもらえる教室が「りぶら」102会議室で行われている。メールで申込みや問い合わせをして参加できる。

5月は10日、17日、24日、31日、6月は7日、14日、21日、28日7月は5日、12日、19日、26日の開催が予定されている。



● 現職研修委員会総会

四月十七日(金)に予定されていた現職研修委員会総会が、新型コロナウイルスの影響により開催中止となった。総会の中で予定していた安藤直哉教育長のあいさつの概要を掲載する。

校庭に咲きほころぶ満開の桜は、次第にまぶしいほどの新緑へと移り変わり、目にも鮮やかな季節を迎えました。

新型コロナウイルスの蔓延により、例年とは異なる現職研修委員会総会となりました。臨時休業が続いています。我々教師は、このような状況下でも、子供たちに対して最低限の教育を施す必要があります。臨時休業中に子供の顔を思い浮かべながら教材研究を進めた先生方の情熱は、必ず子供たちの心に響き、充実した教育活動の展開につながることでしょう。また、家で過ごす時間が多い今だからこそ、子供たちの主体的な姿勢を育てたいところです。学習のみならず、得意分野に磨きをかける活動もよいでしょう。与えられるのではなく、自ら考え行動すること、生きる力を身に付けるきつ

けにもなるのではないのでしょうか。まだまだ緊張は続きますが、どんな状況においても、岡崎市の教師は、目の前にいる子供の安心・安全のためにと、もに最善を尽くしてほしいと思います。

小学校においては本年度から新学習指導要領が実施されます。「主体的・対話的で深い学び」を実現させるため、各学校で特色ある教育活動を展開してください。また、本市教育活動の目玉の一つでもある「岡崎版GIGAスクール構想」においては、全ての子供たちが、自らの特性を生かし、個別最適化された学習に取り組めるよう、全六十七校の校内ネットワークの整備を目指し、タブレット端末を一定学年以上で個人に貸与していきます。他にも、パイロット校における校内フリースクール設置を進めるなど、より子供たちに寄り添った教育を目指していきます。そんな中、忘れてはならないのは、変えるべきもの、変えるべきではないものを見極めた上で、自ら研究と修養に努めることです。「教員は学校で育つ」と言われます。仲間とともに、子供たちとともに学び続けてほしいと思います。

最後にになりましたが、日頃から現職研修委員会の各部では、それぞれの活動を着実に推進し、教職員の力量向上を図る努力をされていることに感謝しております。今後、未来を担う岡崎の子供たちのために、自覚と誇りをもち、さらに魅力あふれる教育の推進に邁進していただくことを切に願い、あいさついたします。

※(四月十七日現在のもの)

● 少年自然の家だより

心のゆとり

少年自然の家所長 川口 厚

人は自然を敬い、畏れて生活してきました。また現在もそういう気持ちが大切だと改めて知らされる。東北地方太平洋沖地震の津波、そして今回の新型コロナウイルス。できれば避けて通りたところだが、そこから目を背けることはできない。

人は自然の大きさや怖さを目の当たりにするたび、知恵を絞って多くの困難を乗り越えてきた。今このときも、学校現場はこれまでに経験したことのない事態に様々な対処をしていることだろう。

私事だが、長い教員生活を離れて二年が過ぎた。この少年自然の家という静かな山の中に行くと、そうした学校現場で感じていた危機感が薄れがちになる。しかし、教育委員会や指導員、各学校から様々な情報を得ると、教育現場は日々変わる情勢に戸惑いながらも、対応していることを知る。これに倣って少年自然の家も気を緩めることなく、次に始まることを思い浮かべながら、計画的に準備を進めている。先が見えないのは不安だが、こういうときこそ教師や教育関係者は、子供たちの姿を思い浮かべながら、粛々と準備を進めておくことが大切だろう。

学校教育の大きな目的の一つは、家庭だけでは体験することが難しい「社会性の伸長」である。学校生活を通じ

て、子供たちは人とかがわり合う中で自己を見つめ、自己実現や新たな成長を図っている。その中の一つの手段として「山の学習」は生かされてきた。

しかし、今年度は学校の休業に伴い、一学期に実施予定をしていた学校が、予定変更、もしくは中止にせざるを得ないことになった。学習や他の行事のことを考えるとしかたがないし、当然だと思ふ。

そこで、ふと考えるのは、学校が再開されてからのことだ。教師も子供も学習に追われて余裕を失い、追いつめられるようなことはないだろうか。熟考の上で行事を減らすことが、そのような事態を避けることにつながればと思ふ。

難しいこととは思ふが、先生方にはいつもどこかで心のゆとりをもち、この一年を歩んでほしいと願っている。山の学習を予定している学校はぜひ、「ホッとする時間をつくろ」という目標を入れてほしい。



満開の山桜

● 表彰

◆令和元年度優良少年消防クラブ

表彰(全国表彰)

○消防庁長官賞

生平小

令和元年度 岡崎市教育研究論文 入賞者

■小学校個人の部

最優秀賞

教科名	学校名	氏名	主 題
体 育	竜美丘小	加藤 雅也	運動の特性にふれ、仲間と協働的に学びを深める中で、主体的に運動に取り組む児童の育成

優秀賞

国 語	梅園小	川口 真生	本文を根拠にして主題に迫り、仲間とかかわり合いながら、物語の世界を深く味わおうとする子どもの育成
社 会	梅園小	新井 健祐	主体的に学び合いながら 意思決定することができる社会科の授業
算 数	根石小	大原 洋平	主体的に取り組む、対話を通して考えを深める児童の育成
生 活	根石小	斎藤優亜子	新たな価値を創出し、生活の中に生かそうとする子の育成
算 数	根石小	中根 泉	かわり合いの中で、考えを分かりやすく表現したり、他者の考えを生かしたりすることができる児童の育成
理 科	根石小	大久保日向子	自然に親しむことを通して、自ら学ぼうとする子供の育成
特別支援教育	美合小	酒井久美子	日常生活と学習との結びつきを実感できる生活単元学習の追究
家 庭	六名小	白木 歩澄	食材に興味をもち、創意工夫をしながら調理できる子の育成
社 会	三島小	倉田 舞	主体的に課題を追究し、他者理解を深め、主権者意識をもってよりよい社会づくりへの参画をめざす子どもの育成
体 育	山中小	中野 翔太	一人一人の子供が主体的に学び、深め、広げていく体育学習
算 数	山中小	七里 奈穂	操作活動を通して図形の構成や変化について熟考し、自分の学びを意欲的に表現できる児童の育成
学習情報	生平小	石谷 遼一	意欲的・主体的に学習に取り組む、筆算のアルゴリズムを追究する子どもの育成
学校保健	常磐小	市川 実奈	自分に自信をもち、自己を認め合う言葉がけや行動ができる子の育成
理 科	細川小	日下部教子	主体的・対話的に学び合い、粘り強く問題解決しようとする子の育成
生 活	岩津小	近藤 和恵	思考を働かせて自分の考えを構築し、気付きを高め合う児童の育成
理 科	矢作東小	上嶋 千咲	主体的に学び、確かな視点をもって関わり合う中で、自分の考え方が深められる理科授業をめざして
体 育	矢作東小	坂本 惟	仲間と関わり合いながら自己の課題に立ち向かい、技能を高める児童の育成
外国語活動	矢作北小	立石安祐美	英語を使って、よりよいコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
総 合	矢作北小	尾崎めぐみ	地域を見つめ、地域に学び、ふるさと「長瀬」のよさを再認識する子供の育成
国 語	上地小	北村 彩	正しく・読み重ねる子を育てる国語科の授業
国 語	上地小	熊谷ゆかり	楽しく・正しく読める子の育成
理 科	六ヶ美西部小	鈴木沙也加	問題を見出し、根拠を基に予想や仮説を立て、実験方法を立案できる子どもの育成
社 会	豊富小	中西 悠	体験学習を通して、社会的現象に関わる課題を自分事として主体的に追究する子供の育成
国 語	宮崎小	鈴木 美沙	叙述を根拠に登場人物の心情やその変化を読み取り、物語を読み深めることができる子供の育成

■中学校個人の部

最優秀賞

教科名	学校名	氏名	主 題
理 科	岩津中	鈴木 里佳	主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～第1学年「物質の状態変化」の実践を通して～

優秀賞

国 語	竜海中	市川 翔子	仲間と共に短歌の魅力を追及し、言葉を吟味して思いを表現する生徒の育成
社 会	竜海中	成田 道俊	主体的な探究活動を通して、仲間とかかわりながら思考を深めることで主権者意識を育む社会科の授業
道 徳	福岡中	大本 満子	能動的な学びにより、自己のよりよい生き方を探究する生徒の育成
理 科	福岡中	稲吉菜美子	能動的に学ぶ生徒の育成
英 語	東海中	神谷 真央	即興でのやりとりを通して、楽しく自信をもってコミュニケーションを図ることができる生徒の育成
社 会	矢作中	中根 良輔	社会的な見方・考え方を働かせながら、仲間とかかわり、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業
保健体育	竜南中	松本 良太	「保健体育科の見方・考え方を働かせた深い学びの構築」
保健体育	北 中	白川 真理	主体的・対話的で深い学びができる授業を目指して
数 学	北 中	西尾 修一	主体的に学び、数学的な見方・考え方を働かせて考え、数学のよさを実感する生徒の育成
社 会	額田中	酒井 孝康	「仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」

■共同の部

最優秀賞

教科名	学校名	氏名	主 題
教育全般	岩津小	現職研修部 代表 坂元 薫	自ら考え、判断し、表現する岩津っ子の育成

優秀賞

国語	上地小	現職研修部 代表 杉田 浩史	正しく・深く読む子を育てる国語科の授業
教育全般	額田中	現職研修部 代表 永井 利昌	自ら学び続け、未来を切り拓くことができる生徒の育成

(論文入賞者数)

賞	最優秀	優秀	佳作	合計/応募数
小学校 個人	1	24	58	83 / 229
中学校 個人	1	10	26	37 / 106
小中学校 共同	1	3	5	9 / 15
合 計	3	37	89	129 / 350

佳作

総 合	梅園小	岩田 光憲	生 活	常磐小	吉田 早希
家 庭	梅園小	本郷 水紀	特別支援教育	常磐小	大盛 伸也
国 語	梅園小	本田 裕子	生 活	常磐小	丸中 美来
社 会	根石小	松浦 圭祐	音 楽	奥殿小	後藤 三奈
国 語	根石小	鬼頭 智恵	外国語活動	細川小	鈴木 睦子
国 語	根石小	福永えりな	生 活	岩津小	小川 昇汰
学習情報	根石小	白井 遙也	理 科	大樹寺小	渡邊 智文
体 育	美合小	落合 通也	体 育	矢作東小	柴田 博巳
社 会	美合小	戸田 優花	国 語	矢作東小	長島 亮輔
学習情報	美合小	蜂須賀一輝	国 語	矢作南小	村橋 奈波
音 楽	羽根小	出真 菜香	総 合	矢作南小	兼子 しずか
算 数	羽根小	野村 祥太	生徒指導	矢作南小	尾山 和昭
家 庭	羽根小	手嶋 夕菜	家 庭	六ヶ美中部小	渡邊 桃子
国 語	羽根小	須藤 静香	体 育	六ヶ美中部小	石川 駿
外国語活動	六名小	安藤 翔太	特別支援教育	六ヶ美中部小	本多 友則
体 育	六名小	菅沼 泰行	音 楽	六ヶ美北部小	佐藤 明子
社 会	三島小	倉田 舞	体 育	六ヶ美南部小	杉浦加枝子
図書館	竜美丘小	林 みさと	算 数	六ヶ美南部小	岩月 聖将
国 語	竜美丘小	加藤 真帆	体 育	城南小	濱崎 俊介
算 数	連尺小	三浦 優子	体 育	城南小	濱中 利矩
社 会	連尺小	木里 悠乃	国 語	上地小	酒井 伶菜
体 育	井田小	伊藤 禎浩	国 語	上地小	石田みゆき
体 育	井田小	伊奈 亨	算 数	上地小	岩瀬彩央理
算 数	福岡小	吉原 昂平	理 科	小豆坂小	永田 祥晃
生 活	本宿小	矢澤 花歩	国 語	北野小	石田 祥重
算 数	本宿小	日高 那葉	道 徳	六ヶ美西部小	本郷 徹真
総 合	生平小	中島 翼	特別活動	夏山小	安原 宏紀
生 活	泰梨小	近藤 里香	学校保健	形埜小	向井 麻由
算 数	常磐小	福岡 真幸	理 科	下山小	磯貝 駿斗

佳作

理 科	甲山中	吉井 裕規	美 術	東海中	近藤 李奈
音 楽	甲山中	前山 千尋	社 会	河合中	辻村 堅吾
美 術	甲山中	森本 都美	学習情報	矢作中	長谷川幸幸
音 楽	甲山中	近藤 雄介	学校保健	矢作北中	原田 彩加
総 合	甲山中	原田 洋輝	技術・家庭	矢作北中	福本 秀裕
数 学	美川中	河上 翔太	国 語	新香山中	井上 朋華
数 学	竜海中	江口 京弥	理 科	新香山中	岩瀬 美瑚
数 学	葵 中	岩野 慎也	技術・家庭	竜南中	山本 紗布
英 語	葵 中	松本 唯	社 会	北 中	平岩 大督
生徒指導	葵 中	次井 祥太	学校保健	六ヶ美北中	石原 千穂
国 語	城北中	市川 涼葉	道 徳	額田中	田中友二郎
特別支援教育	福岡中	大山千加良	社 会	額田中	鈴木 広樹
保健体育	東海中	石原 薫子	図書館	翔南中	石川 俊之

佳作

教育全般	三島小	研究推進部 代表 日置 正敏
教育全般	宮崎小	現職研修部 代表 横山 浩司
特別支援教育	竜海中	特別支援部 代表 松田 優佳
学校保健	福岡中	学校保健部会 代表 都築 日香



・カ  
ツ  
ト

大  
門  
小  
坪  
井  
恵  
里  
子

## 手具を使った組体操 (昭和47年)

写真提供：岡崎小学校

手具(棒)を使って組体操をする六年生。昭和四十七年七月、「自覚にもとづく体力づくり」と題して、研究発表会が行われた。昭和四十六年の学習指導要領の改訂を受け、本市教育委員会は、昭和四十七年の学校教育指導重点の一つとして「身体育成の場をつくり、全校体力の向上を図る」ことを掲げている。この年、岡崎小学校を含む市内の小学校四校、中学校二校が「体力づくり」に関する研究の成果を発表した。その後、「体力づくり」の健康教育から、「心の健康」に重点をおく実践が多くみられるようになった。PTAや地域を巻き込んだ幅の広い取り組みで、子供たちの健やかな心身の育成を図っている。



登校を願う子供たちが、鯉のぼりを見上げる。五月の空に揚げられた鯉には、健やかな成長への願いが込められている。行事予定等が大きく変更されている今年度ではあるが、子供たちが成長しているよう工夫を重ねていきたい。

# どホ

# 阜月



アースワーク (矢作中)

# ホツ

# ツ

常に展示している魚は約五〇〇種類。どの水槽の前でも、お客さんが熱心に解説文を読んでいる。相手の立場になり、何が求められているのかを探り続けた日々。その姿勢が、「日本一解説が読まれる水族館」を創り出した。

## この本を



\*読む力が未来をひらく 脇 明子  
岩波書店 ¥1,600

### 心に残った一文

どうして本を読まないといけないの？

本を読むこと目的は、知識を得ることだったり、楽しむことだったりする。その場合、流し読みや拾い読みでも事足りる。知識を得るためなら、本でなくてもインターネットでも十分である。

流し読みや拾い読みではすまない本、すなわち物語(小説)を読み進めることで、想像力や思考力、記憶力が子供に育っていくと著者は語る。

子供の読書量を増やすために、本を多く借りた子供を表彰することがあるが、一冊の本をじっくり読ませることにも目を向けたいと考えようになった。

- \*思春期のこころと身体Q&A? いじめ 10歳からの「法の人」への旅立ち 村瀬 学  
ミネルヴァ書房 ¥2,200
  - \*老いてこそデジタルを。 若宮 正子  
1万年堂出版 ¥1,100
  - \*教師の「困った!」を解決する授業術 玉置 崇・和田 裕枝  
プラネクサス ¥1,500
- 形埜小 梅田 康典